

問題意識・研究課題

馬 駿

富山大学・極東地域研究センター・教授

問題意識としては、1980年代以降の30年間、北東アジア地域の経済は垂直的分業関係から、徐々に水平分業関係になっていることです。特に日中韓では、1980年代の補完的な経済関係から、代替的な競争関係になっています。

水平分業の中で、域外、域内も含めて、資源の奪い合いが起こるようになりました。一方で国際的には、地域全体の長期的なビジョンの欠如から、資源の枯渇の危機に面しています。その問題意識を確認するために、日中韓の貿易のデータをみてみます。

まず、中間財の貿易では著しく伸びているのは日本の対中国輸出です。最近、韓国が中国に対する中間財の輸出が日本を超えて増えています。これは日韓で中間財において、競争関係にあることを意味しています。中国は以前から日本に対して素材の輸出が多く、その状況は最近もかわりません。大きく変わっているのは、日本から中国への輸出です。日本には資源があまりないのですが、日本から中国への素材の輸出が急激に増加しているのは、日本がどこかから素材を輸入して、加工して、それを中国に輸出しているのではないかと考えられます。

そして、この30年間日本の輸出は最終財から中間財、素材へと変化し、中国は素材から中間財および最終財に変化してきました。韓国は最終財から中間財に変化しています。中国の経済規模が2000年以降大きくなっているのですが、域外への最終財輸出が日本よりも多くなっています。また2000年代の半ば以降域外からの中国の輸入も、素材・中間財・最終財とも日本の輸入を大きく上回っています。

さらに、日中韓とも、域外から最終財、中間財と素材のいずれかの輸入も増加しています。中では素材輸入の増加が著しいです。

以上の状況から次のことが言えるでしょう。日中韓の3カ国の間では中間財輸出について競争が起こっている一方、素材の輸入にも競争が起こっている可能性があると考えられます。要は東アジアにおいて、素材をめぐる国際分業と競争が同時に発生していると考えられます。域外と域内との関係を考えますと、2つのパターンが考えられますが、1つは域外からの資源の輸入において、域内で垂直的な国際分業によって協力し合って、域外に中間財として輸出するということが考えられます。もう1つのパターンは、域外から資源を輸入し、域内における産業内水平的分業が生じ、域内で競争が起こっているのではないかとことです。それにより、域外への中間財の輸出の競争が起こっているのではないかと考えられます。このパターン2については、2つの問題があります。1つは中間財輸出の競争、もう1つは資源の奪い合いという問題です。このような資源の奪い合いはこの域内の国際問題にもつながりかねないと考えられ、今後どのように解決していくかということは重要な研究課題になるでしょう。

フレームワークについてはもう1つご紹介します。国連大学から「富の報告書」が2012

年と2014年に発表されています。それを見ますと、世界の「富の指数」を、人工資本、人的資本と自然資本に分けて考えられています。各国の富については、シャドウプライスと人工資本の積、シャドウプライスと人的資本の積、プラスシャドウプライスと自然資本の積に分けて分析が行われています。その中で注目されるのは自然資本の所です。

この20年間、世界の成長、富の成長率を見てもみますと、実は人工資本と、人的資本はプラスに貢献しています。しかし、自然資本ではマイナスになっている国があります。域内では日本と韓国のは自然資本を犠牲にしていない。これに対して中国では自然資本の寄与度はマイナス(-0.2)となっています。

このように見ると、域内の各国の生産的基盤には構造的差異があるようであり、その差異と、国際分業、および自然資源の持続的利用との関係について、産業レベル、企業レベルのところで分析を掘り下げていくのは我々のプロジェクトの1つの大きな課題と考えています。

われわれの極東地域研究センターは経済学だけではなく自然科学を研究している者もいるため、まずできるだけ海外と協力をしながら、社会経済システムとして、環境システムとの間の融合に焦点を当てて、今後の国際分業の分化、進化と持続的な資源の持続的な利用との関係について、また環境評価および資源ビジネスの可能性について考えていこうと思っています。もう1つの課題としては、北東アジア地域研究の拠点として、今後研究調査ネットワークを構築しながら、この地域の持続的発展の新たな在り方を提示していきたいと考えています。

もう少し具体的に申し上げますと、我々のプロジェクトでは、次の2つの課題を中心に研究を進めていくことを考えています。まず1つは、資源、とくに再生可能な資源に着目して、国際分業の進化と経済発展にどのように寄与していくか、将来のあるべき姿を検討していきたいと考えています。もう1つは国際分業というところに焦点を当てて、マクロおよびミクロの両面から、資源の奪い合いや技術革新を通じた国際的な比較優位を獲得するための競争型成長モデルの限界を分析し、さらに、どのようにすれば北東アジア諸国間でウイン-ウイン関係になるのかを考察し、地域全体の最適な共生型成長モデルの構築について検討していきたい課題です。